



劇団

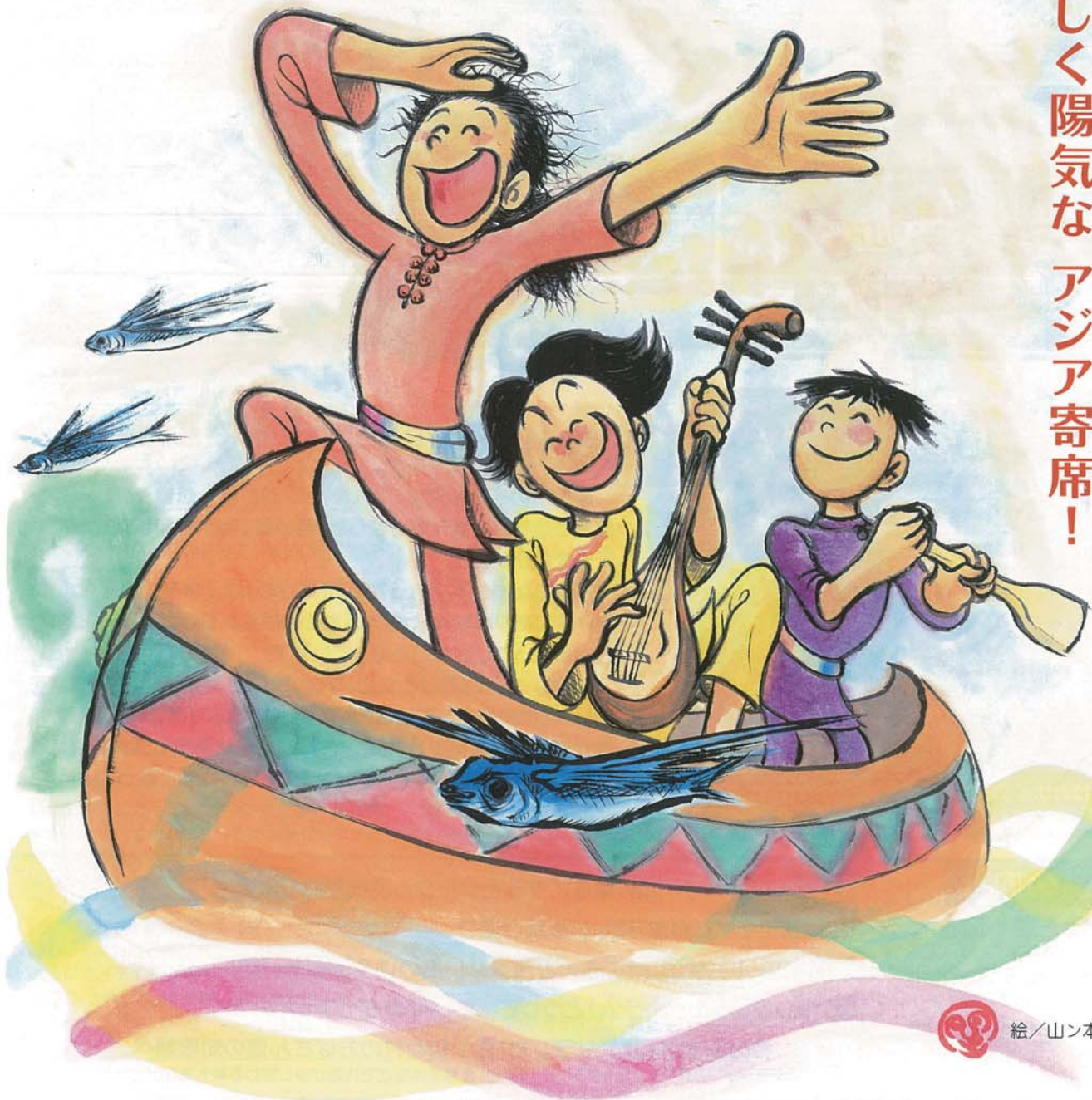
九州の子の風

作 / 山本 佐助
構成・演出 / あさのゆみこ

音楽監修 / 曲尾 友克
制作 / 林 陽一

どんぶらこっこ どんどこ亭

小さな舟で波を乗り越え 各地を巡り 見聞きした 昔遊びや物語
楽しく陽気なアジア寄席よせ!



絵 / 山本 佐助

子どもたちが安心して生活できる時間と場所が、どんどん削り落とされています。

塾通いの低年齢化は、子どもの遊びと生活に、相当の歪みをもたらしています。

一方では、ファミコンゲームの急激な普及があります。現実と虚構との区別がつかなくなる子どももいます。

「外遊びゼロ世代」が生み出されています。

子どもは昔から、遊びの中で身体を通して、多くのことを学んできました。知恵や技、ルールを身につけ、発達を遂げ、文化能力を磨いてきました。もし、子どもから遊びを奪ってしまえば、脳の中でも創造性などの役割を果たす、前頭葉が退化してしまう、と言われていました。

いじめ、不登校、自殺という問題の原因の一つが、子ども時代の遊びの衰退から来ることは、今や常識となっています。

私たちは、この20年間、多くの国々での公演を、続けてきました。

各国の子どもたちや、児童文化関係者との交流で、「子どもの遊び文化」は、国境と言葉の違いを越えて、共通性を持っていることに、改めて感嘆しました。遊びは「世界の共通語」です。遊びを通して、近隣の国に興味を持ち、世界の子どもたちと仲良くなれたら、本当に素晴らしいと思いませんか!?

アジア各地で教わった、興味深い昔遊びや伝承芸能や各国の物語を、会場いっぱい楽しく演じます。

■出演者はシーズンにより変わります。



アジアの昔遊び・伝承民話や物語

どんぶらこっこ どんどこ亭



◎「きつねのホイティ」シビル・ウェッタシンハ 文・絵
松岡享子 訳 福音館書店刊



あさの ゆみこ

演出の思い

劇団風の子九州では、これまでに「遊びから想像・創造へ」の観点で芝居作りを続けてきました。その思いは、20年以上経った今でも変わりません。

子どもたちが本来持っている「遊び心」は、「想像」「創造」といつも一緒にあります。私たち大人もその感性を研ぎ澄まし、子どもたちと出会っていきたくと思っています。

今回はさらに「遊びと文化」を追求し、九州からアジアに視点を向けた、作品を創っていきたくと思っています。風の子九州も何度か海外公演を実施しましたが、「遊び心」は簡単に国境を越えると思っています。そんな力を持つ作品になればと願っています。

■作品の内容

※ 昔 遊 び

- ㊶「フィーフィー」(中国) 棒をこするとクルクル羽根が回ります。
- ㊷「ノルティギ」(韓国) 楽しい板跳び遊び。
- ㊸「ヒコーキ」(韓国) 飛ぶものと飛べないものは? 観客も一緒に遊びます。
- ㊹「米つぶの話」(ベトナム) どうして米つぶは小さくなったの?
- ㊺「きつねのホイティ」(スリランカ) きつねと村のおばさん達の知恵競べ。

(当日、会場条件などで内容が少し変わる事もあります)

※ 民話やお話

㊤「フィーフィー」

すごい！羽根が
クルクル回ってるよ。



㊦「米つぶの話」



㊧「ノルティギ」



あんなに高く！

体育館のフロア上での学校公演



そら、正解だ！



㊨「ヒコーキ」

さあ、今から何を
するのかな？



「どんぶらっこ どんどこ亭」感想文

1年生女子

きつねがにんげんになりすましているのが、すごくじょうずだったよ。おもしろいげきだったね。すごかったよ。

2年生女子

わたしが一番心にのこったのは、お米の話です。なぜかと言うと、お米は一年に一回しかできないし、お米にはかみさまがいるからです。アジアのあそびや、楽器がいろいろあってすごかったですね。

3年生男子

最初の歌のところなど、アジアの楽器が日本の楽器とくらべると、とてもちがう事が分かっておもしろかったです。はじめの「米つぶ」というげきの時に、物をそまつにしてはいけないのだなあと思いました。「きつねのホイティ」は、ホイティが歌うところがおもしろかったです。最後にホイティの役をした人が手をふってくれたので、うれしかったです。また、見たいです。

4年生女子

一つ一つの言葉に心がこもって、まるでほんとうにそこにいるみたいです。だからゆびさす方ごうを、どうしても見てしまいます。あと、いっぱいの人に劇を見せてあげてください。みんないっぱい笑顔にしてください。

5年生女子

「飛行機」というあそびは、みんなでやっておもしろかったので、雨の日や休み時間にみんなでやってみようと思いました。お米の話もひとりで大きく育ってころがってきて、すごいです。昨日、いねかりをしたばかりで、つかれる気持ちは、わかります。きつねのホイティの話もすごくおもしろかったし、ひょうたんでおめんをつくっていて、おもしろかったです。アンゴと、マンゴと、ランゴがとてもおもしろくて大愛してしまいました。

6年生男子

今日、劇を見て、アジアの国の楽器や遊びがこんなにあったんだなあと思いました。最後にあった「きつねのホイティ」は、お面を工夫して作っていたのがすごかったです。アジアの国の遊

びはできたら、一回回してみたいです。ぼくは六年生なので、今日で最後の観劇会だったので、これから劇を見れないのがさみしいです。

担当教諭

公演中は、子どもたちの笑い声と笑顔がいっぱいで、とても楽しい時間を過ごさせていただけました。子どもたちだけではなく、大人も声を出して笑い、日頃の学校生活とは違うひとときでした。大口あけて笑っている職員もいました。公演そのものも本当に素晴らしいかったですし、公演中に、子どもたちがとても楽しそうにしている姿を見ることができて、またさらに嬉しくなりました。今回の作品が完成するまでには多くのスタッフの皆さんが関わっておられるということをお聞きしました。風の子九州の皆さん、今後もたくさん感動を運んでください。

担当教諭

このような機会が少ない子どもたちにとって、「どんぶらっこ どんどこ亭」は、とても心に残ったようです。アジアの国々に興味を持った子、他国の遊びに興味を持った子、いろいろ楽器に興味を持った子…と受け取り方は様々でしたが、子どもたちに「学びの種」をたくさん蒔いていただきました。本当にありがとうございました。

風の子九州は、1990年以来毎年海外での公演を続けてきました。外務省関連の独立行政法人・国際交流基金派遣による、在外日本領事館主催の日本文化芸術紹介事業や、各国のチルドレンズアートフェスティバルへの招待公演などで好評を博しました。

アジアだけでなく、オセアニアや北米の諸都市でも、人気をさらってきました。

国際交流

アジア公演

中国

- 1990年 7月 「にっこりぼっかり座」香港・文化センター
- 1993年 7・8月 「とっぴんしゃん」香港・文化センター
- 1999年 7月 「いらっしゃい」香港・文化センター
- 2000年 1月 「いらっしゃい」広州市星海音楽庁ホール

韓国

- 1996年 7月 「にっこりぼっかり座」ソウルハクチョン青劇場、ソウル芸術の殿堂自由小劇場
- 1999年 7・8月 「にっこりぼっかり座」ソウル芸術の殿堂自由小劇場、ソウル・ヤンピョン・バタンゴール劇場
- 2001年 2月 「風の子あそびや とっぴんしゃん」ソウル芸術の殿堂自由小劇場
- 7月 「にっこりぼっかり座」ソウルハクチョン緑劇場、安陽文化芸術センター、春川人形劇場
- 2002年 7月 「風の子あそびや とっぴんしゃん」ソウル文芸会館小ホール(アシテジ世界大会日本代表)
- 8月 「びーかぶー」ソウル・世宗文化センター
- 7・8月 「マンナム・出会い」ソウル・世宗文化センター
- 2003年 8月 「マンナム・海をわたる風とかけ橋」ソウル・世宗文化センター
- 2005年 4・5月 「にっこりぼっかり座」ソウル・サダリアーツセンター・ドングラミ劇場
- 2006年 1月 「マンナム・三つの森の物語」果川市民会館、富川文化センター、金海芸術センター、議政府文芸センター
- 9月 「風の子あそびや とっぴんしゃん」ソウル・サダリアーツセンター
- 2008年 8月 「ふらっと・ぶらっと」巨済島アーツセンター
- 2009年 5月 「にっこりぼっかり座」釜山・キョンサン大マルチメディアホール、巨済島アーツセンター、ソウル・サダリアーツセンター他
- 2010年 5月 「かせのこあそびやとっぴんしゃん」ゴヤン、議政府、巨済島、光州
- 6月 「にっこりぼっかり座」ソウル、仁川
- 2011年 5月 「にっこりぼっかり座」ソナム、ウジョンブ、ソウル、ハナム

インドネシア

- 2000年 1月 「いらっしゃい」ジャカルタ芸術劇場・ジャカルタ日本人学校体育館

パキスタン

- 2000年 2月 「いらっしゃい」カラチ・アガカーン大学病院体育館

インド

- 1997年 2月 「にっこりぼっかり座」デリー-LTG劇場、カルカッタ・ヴィディアマンディル劇場、ムンバイ・ビルラクリダケンドラ劇場、チェンナイ・ミュージックアカデミーTTKホール

シンガポール

- 2004年 3月 「びーかぶー」ACT3インターナショナル劇場

日本への招聘公演

- 2002年 5~7月 「マンナム・出会い」韓国ソウルの劇団サダリと風の子九州の合同公演 福岡早良市民センター、広島市青少年センター、東京四谷区民センター、下対馬開発総合センターなど、25カ所、33ステージ
- 2003年 5~7月 「マンナム・海をわたる風とかけ橋」九州、大阪で38カ所、46ステージ
- 2004年 5~10月 「マンナム・海をわたる風とかけ橋」西日本56カ所で65ステージ
- 2005年 9~12月 「マンナム・三つの森の物語」北海道から沖縄まで全国縦断公演、65カ所、87ステージ
- 2008年 10・11月 韓国の劇団サダリ「時計が止まったある日」鹿児島県内25ステージ、福岡市ふくふくプラザ2ステージ
- 2009年 7・8月 韓国・劇団サダリ「時計が止まったある日」東京・大阪・沖縄 4ステージ
- 2010年 3・9~12月 韓国・劇団サダリ「時計が止まったある日」福岡・鹿児島・大阪・愛知 大分・長崎・佐賀・東京 21ステージ
- 2012年 7月 オーストラリア deBASEプロダクション&Queensland劇団「Hurry Up and Wait」 福岡・鹿児島・沖縄 12ステージ



劇団 風の子九州

〒814-0002 福岡市早良区西新5-5-13
 TEL 092-841-7889 FAX 092-841-7896
 ホームページ: <http://www.kazenoko-kyushu.or.jp>
 E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp